



特集

大阪女子短期大学創立50周年

January
Vol.27

楽人





巻頭	理事長年頭挨拶	2
特集	大阪女子短期大学創立50周年	3
	大阪女子短期大学50周年記念に	3
	創立50周年記念式典	4
	第1回ホームカミングデー	5
	大阪女子短期大学50年のあゆみ	6
トピックス	大阪商業大学の起業教育の取り組みについて	7
	大商大ビジネス・アイデアコンテスト	8
	高校生起業教育ミーティング	8
	大商大ビジネスアイデア甲子園	8
	大商大ウォームビズの取り組み／クールビズ成果報告	8
ニュースファイル	大商大大学院 公開講座	9
	大商大附属幼稚園 おもちつき／クリスマス会	9
	神戸芸工大 公開講座	9
	大商大高校 デザイン表現コースが卒業制作展を開催	10
	大商大 世界のトラランプ展を開催	10
	大阪女子短大高校 「第15回国際高校生選抜書展」において近畿地区団体賞を受賞	10
	大商大 学長褒賞授与式を開催	10
	大商大堺高校 収穫感謝祭が行われました	10
	大商大高校 デザイン表現コースと大商大附属幼稚園による協力授業について	10
	クオリティ・オブ・ライフく上手にストレス・コーピングく	11
	各設置校の主な予定	11
	編集後記	11

学校法人谷岡学園 理事長 谷岡一郎

大阪女子短期大学 学長 小田富也

表紙の写真

現在の藤井寺キャンパスの航空写真と昭和40年代後半頃の航空写真。
校舎は新しくなりましたが、キャンパス内の緑が大切に残されている様子がよく分かります。美しい緑に包まれたキャンパスは昔も今も変わりません。



新年あけまして おめでと〜うございませす。

学校法人 谷岡学園
理事長

谷岡 一郎



教

職員の皆様におかれましては、よい新年を迎えられたことと、心より

お慶び申し上げます。

昨年は皆様のご尽力、ご協力のもと、神戸芸術工科大学の新学部の開設や大阪女子短期大学創立50周年式典をはじめとする、各種事業計画も予定通り終了し、谷岡学園の更なる発展に向かって新たな一歩を踏み出すこととなったと確信しております。

さて、今年、2007年から「大
学全入時代」に突入します。毎年、私学を取り巻く環境については厳しいと申しておりますが、いよいよまさにその時代となりました。昨年から国公私立に関わらず大学、高校などの統廃合が進んでおり、昨今も大学間の合併・統合に関するニュースが新聞紙上をにぎわしております。今後は更にその動きが加速することは間違いありません。しかし、このような状況において、単に生き残つていこうというだけの考えは全く持っておりません。私はこの世の中で、役に立つ、有益であるもので無くなるものはないと思っております。

そのためには、今後も継続して建学の理念「世に役立つ人物の養成」の現代的解釈である「思いやりと礼節」「基礎的実学」「柔軟な思考力」「楽しい生き方」の4つの柱の具現化に努め、更に4つの柱に基づく教育を、より明確化した形として推し進めてください。設置各校においては、施設設備等の更なる充実が図られておりますが、ハード面の整備以上にソフト面の充実が、今の社会からは求められております。ゆえに世の中に役に立つ人間を育てていく教育システムを、一層充実させ、各校の教育環境の中で確固たるものにしていただきたいと思っております。そして有益な人間を今の社会にどんどん送り込むことが、学園の存在意義を社会にアピールすることにつながると考えております。

皆様には谷岡学園が、そして大学、高校、幼稚園のいずれもが世の中に役に立つものである以上、必ず残るんだという信念を持ちつづけ、教育・研究に臨んでください。この一年が皆様にとって本当に良い年で、また学園全体にとっても有意義な年であることを心より祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

を迎えて

大阪女子短期大学 創立50周年

大阪女子短期大学が昭和30年(1955)4月に開学してから、昨年創立50年の節目を迎えました。同大学では平成17年度・18年度の2年間で50周年記念事業期間と位置づけ、同窓会室の設置や50年の歩みを映像で振り返るDVDの制作等、各種記念事業を展開してきましたが、その集大成となる創立50周年記念式典等が平成18年12月2日(土)に開催されました。

今回の楽人では同日に実施された第1回ホームカミングデー、記念式典並びに記念講演会の様子を報告するとともに、これまでに実施された記念事業の概要等の紹介をいたします。

またこれまでの同大学が歩んできた足跡を紹介するとともに、小田富也学長には創立50周年を迎えることができたその思い並びにこれからの抱負等について語っていただきました。



大阪女子短期大学50周年記念に

本 学は50周年の歩みの中で様々な方々のお世話になりました。その方々にご臨席賜り創立50周年を記念する会を催すことができましたことをうれしく思います。50年の歴史を顧みる時、各時代に在籍した教職員の並々ならぬ努力の諸相を読み取ることが出来ます。さらに、卒業生諸姉、保護者の皆様、藤井寺市をはじめとする近隣の多くの方々から多大のご支援をいただきました。そのお蔭で現在もこのように教育活動を継続できることを思うと感謝で胸がいっぱいです。

藤井寺は井真成(イノマナリ)という立派な遣唐留学生を輩出した地と言われます。井真成は当時の先進国である唐の国で勉学に励み、帰国後世に役立つ人物として日本に尽くすことを志しました。しかし、帰国目前の734年に唐の地で死亡し、志を果たすことができなかったのです。唐の玄宗皇帝は優秀な留学生井真成の死を悼み墓誌を作らされました。この話が史実として明らかにされたのは、平成16年に中国の西安市でこの墓誌が発見されることによります。以来、藤井寺市民は世に役立つ人物を目指して勉学に励む青年を輩出する土壌がこの地

にあることを誇りにしているのです。

本学の創設者谷岡登先生が、この藤井寺の地に「世に役立つ人物の養成」を理念として本学を創設されたのは、この井真成の史実が明らかにされるはるか以前になります。にもかかわらず、「世に役立つ人物の養成」を理念とする本学の創設には、「こゝ藤井寺の地がふさわしいこと」を谷岡登先生が予知されていたように思えてなりません。

本学で教育活動を実践する私達は、「世に役立つ人物の養成」が建学理念として与えられていること、そしてこの理念実現にふさわしい土壌の藤井寺に学び舎があることを誇りとし、喜びとしなければなりません。

幸いにも、「世に役立つ人物の養成」実現のための4つの柱「思いやりと礼節」「基礎的実学」「柔軟な思考力」「楽しい生き方」が現理事長より示されています。私どもはこの4つの柱を咀嚼し、具体化し、学生の血となり肉となるような教育をこゝ藤井寺の地でますます強力に推進したいものです。このことが創設者の意志を生かすことであり、本学の存在価値を世に示すことになるからです。



学長 小田 富也

記念講演会



遙 洋子

「はつらつ生きて生きて輝いて」

記念講演会は式典に引き続き行われました。講師にはテレビやラジオ等で活躍中のタレントで作家としても数々の著書を発表している遙洋子さんを招き、「はつらつ生きて生きて生きて生きて」を演題に講演が行われました。

冒頭、遙さんは「キャンパス奥にある枕木が並ぶ小道が非常に気に入りました。また図書館手前の池の鯉にはびっくりしました」と講演前にキャンパスを見学されたときの印象を紹介し、また同大学については「今の時代に最も必要とされる学科や専攻で構成がされていると思いました」と述べられました。

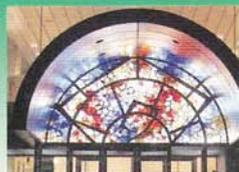
講演では遙さんの大学時代の演劇部でのエピソードや、当初女優として活動する中、現実の厳しさを味わい女優を断念したこと、タレントとして活躍される中、30代前半から女性性として活動する上での難しさなどについて語られました。

また、社会のホンネと建前など、色々な矛盾に悩んだとき東京大学の土野千鶴子先生のもと社会学に関する多くの文献を調べたこと、その中から「女性が社会の中で感じる矛盾、生きづらさなどは自分のせいと思わせる社会がある」と感じられたことなどを紹介されました。

最後に講演会にも参加していた学生たちには「自分で誉めてあげられる自分、胸を張れる自分、自信が持てる自分作りが大事です。そのためには何事にも一生懸命がなくては取り組んでください。そうしたら、誰かが自分を責めたとしても、自分はんばつた、自分に拍手を送れる自分に出会えるはずですよ。ひとりひとりの女性が胸を張り、納得して私は生きましたといえるような人生をこれから歩んでいきたいと思えます」と、彼女たちの今後の活躍に対してエールを送り、約1時間の講演は終了しました。

創立50周年

創立50周年記念式典



大阪女子短期大学
創立50周年
記念事業について

大阪女子短期大学では平成17年度・18年度の2年間を50周年記念事業期間と位置づけ、各種記念事業を展開してきました。ここでは、これまで展開してきた各事業について概略等を紹介いたします。

プログラム(登壇者敬称略)

開会の辞

50周年記録DVD上映

挨拶

大阪女子短期大学 学長
学校法人谷岡学園 理事長

来賓挨拶

藤井寺市 市長
大阪女子短期大学同窓会 会長
大阪女子短期大学教育後援会 会長

小田 富也
谷岡 一郎
井関 和彦
高岸 智恵子
寺西 隆

学生による現在の大学紹介

休憩

記念講演会 講師 遙 洋子

演題 「はつらつ生きて生きて輝いて」

閉会の辞



記録DVD

「50年のあゆみ」作成



創立当初の記録を残すために、特に昭和30年から50年代を中心とした映像資料を集めて制作。

記念CD

「音のアルバム」作成



同大学での学生生活を「音」で振り返ることができる思い出のCDの制作。

7号館取得

教育環境の改善、地域子育て支援研究所の開所、学生のコミュニティ・ホールの提供などを目的に、平成18年4月に「教育研修センター(7号館)」をオープン。新教室棟として使用を開始。

広報VIの推進

創立50周年シンボルマークを作成し、大学案内等各種印刷物を通じて卒業生、関係者への感謝と、この伝統の継承の意を込めて、VIの推進を図る。

「紀要」

創立50周年記念号の発刊

同窓会室の設置



創立50周年を期に、同窓会室を新たに取得した7号館4階に設置。平成18年10月21日にオープンセレモニーを開催する。

同窓会名簿発刊

(※同窓会主催事業)

第1回ホームカミングデー開催

記念式典当日にキャンパスに集い、懐かしい先生方や学友と再会する第1回ホームカミングデーを平成18年12月2日に開催する。

■平成18年12月2日(土)藤井寺市立市民総合会館大ホールにおいて、大阪女子短期大学創立50周年記念式典並びに記念講演会が開催されました。当日同会館には学園関係者、卒業生、在学生、一般の方々等、約400名が出席し、同大学の創立50周年を祝いました。

■オープニングとして記念事業の二環として作成されたDVD「大阪女子短期大学50年のあゆみ」が上映され、開学当時の昭和30年から昭和50年代を中心とした現在の同大学の発展の歩みを懐かしい映像等で振り返りました。

■懐かしい映像の上映に引き続き、挨拶として小田富也学長、学園から谷岡一郎理事長の順で挨拶が行われました。(小田学長挨拶についてはP3をご覧ください)小田学長に続いて挨拶を行った谷岡理事長は「50年のあゆみの映像から、旧校舎に登ったこと、大学院生時代、高校で課外指導を行ったことなどが懐かしく思い返されました」と振り返られるとともに、卒業生の方には「勉強というのは卒業したら終わりというものはありません。もしこの学園にもう一度

勉強したいということがあればぜひご相談いただきたい」と学ぶ姿勢を持ちつづけてほしいと訴えられました。最後に「この学園はこれからも世の中でどんどん活躍できる、本当の意味で役に立つ人間を輩出していきたい。過去50年そうだったように、次の50年もそうありたいと思います」と締めくくられました。

■井関和彦藤井寺市長、高岸智恵子同窓会会長、寺西隆同窓会会長、寺西隆同窓会会長による来賓挨拶の後、同大学の現在の状況を紹介するコーナーとなり、在学生による趣向を凝らした各科・専攻紹介が行われました。映像を使ったもの、演劇を取り入れたもの、コメディータッチによる紹介などがあり、教員が登場するシーンなどでは会場が大いに盛り上がりました。

■式典に引き続き、タレントの遙洋子氏による記念講演会が実施されました。(詳細はP3をご覧ください)

■2部制で行われた記念式典、講演会には在学生も参加し、アットホームな雰囲気のもと盛会のうちに終了いたしました。



1 在学生も式典に参加し、ともに祝いました



2 谷岡一郎 谷岡学園理事長の挨拶



3 井関和彦 藤井寺市長の祝辞



4 高岸智恵子 同窓会会長の祝辞



5 寺西隆 教育後援会会長の祝辞

大学紹介



6 生活科学科 生活デザイン専攻



7 生活科学科 食物栄養専攻栄養士コース



8 生活科学科 食物栄養専攻製菓コース



保健科



幼児教育科



第1回

ホームカミングデー開催

大阪女子短期大学創立50周年記念事業の一環となる
第1回ホームカミングデーが創立50周年記念式典と同日の12月2日(土)に
200名を越す卒業生の方々の参加のもと開催されました。



1 小田富也学長の挨拶
3 高岸智恵子同窓会会長の祝辞

2 集まった卒業生の方で会場はほぼ満員となりました
4 室屋ユリ子先生のミニ講義

当日はホームカミングデーに参加した卒業生とともに50周年が祝えるよう、ホームカミングデーの式典は午後から予定されている創立50周年記念式典に先立ち午前中に行われました。

まず、式典の開始前をキャンパスめぐりと設定し、久しぶりにキャンパスを訪れた卒業生の方々が懐かしいキャンパスを自由に見学できるような時間に充てられました。数箇所の見学ポイントを設置し、おおきく変貌を遂げたキャンパスを効率よく見学できるよう配慮された中、卒業生の方々は昔と変わらない懐かしい風景と、新しい校舎となり、大きく変わった学舎等感慨深く見学されていました。

平成12年に新築した短大棟3階のグリーンホールで行われた式典では、小田富也学長、高岸智恵子同窓会会長の挨拶が行われ、小田学長は、自身が好きな子育てに関するエピソードを引用し、「家庭教育でも学校教育でも今最も欠けているのは、厳しさの中にある愛情だと思います。厳しさは必要ですが同時に子どもへの愛情があってこそ子どもは正しく育ちます。このことは大学教育でも同じで、厳しく知識を伝授するだけでは学生は育ちません。私たち教職員が厳しさと同時に学生を尊敬する気持ち、学生を思いやる気持ち、学生を大切にすることがあってこそ、そしてそれが学生に伝わってこそ、学生は自らの力で成長していきます。本学には厳しさと同時に愛情に満ち満ちた教育が行われてきた歴史があることを誇りに思います。私もはこの教育を今後もより強く推し進める所存です。本日のようなホームカミングデーだけでなく、頻りに母校に立ち寄っていただける大学でありたいと思います。」と参加した卒業生の方々に語りかけるように述べられました。

また高岸同窓会会長は「皆さまようこそお越しいただきました、というより『お帰りなさい』といった方がよいかもかもしれません。昭和30年代から平成18年までの卒業生の方々が本学に帰ってこられました。30年代にご卒業された方々は現在のキャンパスには大いに驚かれたことでしょう。また最近卒業された方は今の校舎で勉強されたので、驚きなどはないかもしれませんが、私は本当にこのように立派な学舎を見ると感謝の気持ちで一杯です。

卒業生の皆さまにはこれからも折をみて母校を訪れていただき、母校発展のためのお力添えをお願いしたいと思います」と挨拶されました。

挨拶に引き続き、同大学で長年にわたり教鞭をとられ、同大学のことを一番よく知る室屋ユリ子名誉教授によるミニ講義が行われました。ミニ講義では室屋先生が大学とともに歩んできた道のりを当時のエピソードを交えながら説明されました。また参加した卒業生の方々に学生時代の雰囲気や味わっていただくため、講義の開始と終了のお知らせにはチャイムが使われるなど趣向を凝らした演出が用意されていました。

カフェテリア・バステルに移動して行われた懇親会(お帰りなさい!)では、卒業年度ごとに着席した卒業生が学生時代の思い出話を花を咲かせ、懐かしい友人等との再会を喜び、次回のホームカミングデーでの再会を約束していました。

懇親会終了後は、創立50周年記念式典の会場となる藤井寺市立市民総合会館までの貸切バスが用意され、卒業生の方々は次の式典会場へと移動されました。



あゆみの50年

大阪女子短期大学



- 昭和 30年 大阪女子短期大学開学 家政科(40名)を設置
初代学長 谷岡登就任
- 33年 保健科開設(40名)
- 42年 新校舎竣工(7階建 4,774.64m²)
- 43年 家政科を家政および食物栄養に専攻分離
- 49年 2代目学長に谷岡太郎就任
- 50年 児童教育科初等教育専攻(50名)・
幼児教育専攻(50名)を設置
- 60年 図書館・研究室 新築竣工(延3,205.84m²)
- 平成 2年 家政科家政専攻 入学定員増
- 3年 保健科 入学定員増
家政科食物栄養専攻 入学定員増、
栄養士コース・食生活文化コース開設
- 4年 児童教育科初等教育専攻に初等教育コースと
国際教育・情報コース開設
- 7年 家政科を生活科学科に、
家政専攻を生活科学専攻に名称変更
- 11年 生活科学科生活科学専攻に
ファッションデザインとインテリアコース開設
生活科学科生活科学専攻のコースを
ファッションデザインコース、インテリアデザインコース、
情報・ビジネスデザインコースに変更
児童教育科初等教育専攻のコースを
小学校コース、幼稚園コース、情報・文化コースに変更
- 12年 校舎新築(短大棟1号館)
生活科学専攻を生活デザイン専攻に名称変更
保健科に養護・保健と福祉・医療秘書コース開設
3代目学長 東田政重就任
- 13年 食堂・製菓実習室(6号館)竣工
食物栄養専攻食生活文化コースを改編、
製菓コースを設置
- 14年 児童教育科を幼児教育科に名称変更
(初等教育専攻募集停止)
- 16年 4代目学長に小田富也就任
地域子育て支援研究所開設
- 17年 創立50周年
7号館(教育研修センター)取得
- 18年 創立50周年記念式典開催



大阪商業大学の起業教育の取り組みについて

大商大ビジネス・アイデアコンテスト 大商大ビジネスアイデア甲子園 高校生起業教育ミーティング

大 阪商業大学では、起業教育の3本の柱として「学生への起業教育」を軸に「地域と大学が連携した起業家育成」「高校と大学が連携した起業教育」を打ち立て、起業家精神あふれる人材の育成に取り組んできました。そして先日在学生を対象にした大商大ビジネス・アイデアコンテスト、高校生を対象とした大商大ビジネスアイデア甲子園並びに高校生起業教育ミーティングが実施されました。同大学では起業家育成のための様々な取り組みを行っておりますが、ここではその部の右記取り組みについて報告いたします。

なお、同大学の起業教育にかかる取り組みは、他の大学にはないユニークかつ優れた取り組みとして平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」(特色G)に採択されております。

大商大ビジネス・アイデアコンテスト

平成15年(2003)から始まった大商大ビジネス・アイデアコンテストは、同大学学生を対象に商品やサービス及びユービジネスについての斬新なアイデアを募集するものです。同コンテストでは書類審査を2度行い、二次審査を通過した企画、アイデアに対してファイナル・プレゼンテーションによる最終審査を実施し、各賞を決定します。単に自身が考案した企画の審査ではなく、ファイナル・プレゼンテーションにおいて自身の企画のすばらしさを審査員並びに会場の参加者に向けてアピールすることが必要となるため、プレゼンテーションのノウハウを勉強し、プレゼンテーション能力を磨く良い機会となっております。大商大ビジネス・アイデアコンテスト2006のファイナル・プレゼンテーションは平成18年11月11日(土)に実施され、応募総数870件の中から厳しい審査を突破し、最終審査に残った7名によるプレゼンテーションが行われました。

各賞の受賞者とビジネスアイデア名は以下のとおり。

受賞名	氏名	所属
学長賞	川上 滋	経済学科4年 「楽旅」～「パズル」方式による オリジナル旅行プランの作成～
副学長賞	戸村 純子	経営学科3年 頭と体の健康は食生活から! 「BIOLシビ」
東大商工会議所 会長賞	内藤 久稔	商学科 2年 新しいファッション通販 ～サイズ適合と仮試着～
特定非営利活動法人 東大阪地域活性化 支援機構理事長賞	永井 春香	商学科 2年 動画とリンクするカタログ販売 ～ネット融合カタログ～
審査員特別賞	的場 尚也	経営学科3年 犬と一緒にきびだんご ～ペットとの一体感を演出します～
	寺脇 千紗	経済学科3年 ペットと一緒にエステ ～飼い主もペットと癒されよう～
	淵之上和良	経営学科3年 地域密着型アフィリエイトサービス Pステーション



谷岡学長と学長賞受賞者

入賞者全員による記念撮影

高校生起業教育 ミーティング

高校生起業教育ミーティングは「高校生同士の交流による起業家マインドの醸成」を目的に行われる交流会で、昨年度から実施されました。「相互交流」並びに「地域経済を学ぶ」をキーワードに大商大OB・PO・コース生も加わり、高大連携を図りながら平成18年12月16日(土)～17日(日)の2日間の日程で行われ、各高等学校で取り組まれている起業教育などの事例の発表や地元東大阪市の企業の協力のもとワークショップが実施されました。同ミーティングには11校52名の生徒・教員が参加し、地域・学校・学年が異なる生徒同士が交流することになりました。チャレンジ精神あふれる起業家マインドを高める試みを実施されました。

最後に起業教育委員会委員長佐々木助教にこれら一連の取り組みについての感想並びに次年度に向けての抱負等を述べていただきました。

起業教育委員会 委員長
佐々木 幸保助教

1990年代以降の経済・社会の変化の下で、「自ら学び、考え、行動できる」人材の養成が求められてきました。本学の起業教育は、そのような要請にこたえるものであると同時に、建学の理念である「世に役立つ人物の養成」を今日的な内容で実践していることとするものです。

アイデアコンテストに参加した学生・生徒諸君は、実際に生き生きとした社会に存在する問題をつかりと見据えていました。高校生ミーティングでは、産学ならびに高大の連携が行われ、地域経済を学びながら起業教育実践が実現しました。これらの教育に参画した学生や生徒は、皆「自ら学び、考え、行動」していたと認識しています。次年度以降も、参加者が能動的に学習することのできるよう環境を整えていきたいと思っております。

【2日間のプログラム】

- 12月16日(土)
13:00～16:30 大商大ビジネスアイデア甲子園表彰式
17:00～18:15 起業教育事例、各校による起業教育の
取り組み発表
18:30～20:00 夕食・交流会
- 12月17日(日)
9:00～13:00 アイデア発想ワークショップ
「磁石を使ったアイデア発想」
講師)株式会社下西製作所
代表取締役社長 下西 巖氏



2日目のワークショップの様子

Entrepreneur



谷岡学長とニュービジネス部門グランプリ受賞者

大商大ビジネス アイディア甲子園

平成14年(2002)に第1回が実施された高校生を対象に新しい商品やサービスのビジネスプランを募集する大商大ビジネスアイデア甲子園は、今回で5年目を迎えました。第1回の597件から今年は3309件と応募総数が6倍になり、全国の高校に浸透したイベントになっています。平成18年12月16日(土)には大商大ビジネスアイデア甲子園2006(第5回)の表彰式が行われ、「ニュービジネス部門」「地域を元気にするビジネス部門」から、それぞれグランプリ、準グランプリ、入賞の受賞者が発表された後、グランプリ、準グランプリ受賞者によるビジネスアイデアのプレゼンテーションが行われました。全員が堂々とした発表を行い、アイデアの斬新さにとどまらず、ビジネスとしてのメリットなどについても言及し、いずれも実際に事業化された場合、その効果が期待できる企画内容でした。

グランプリ、準グランプリの受賞者とビジネスアイデア名は以下のとおり。

【ニュービジネス部門】

受賞名	氏名	学校名
グランプリ	土野麻衣子	田園調布雙葉高等学校 次世代チャリティー<JC Let's!!>
準グランプリ	内倉健一郎	大阪市立天王寺商業高等学校 言ノ葉便(ことのはびん)
	曾田美佳	岡山県立岡山東商業高等学校 映画ナビ

【地域を元気にするビジネス部門】

受賞名	氏名	学校名
グランプリ	光田裕也	広島県立三次高等学校 農村地帯の活性化プラン ～ニート問題と高齢化社会問題解決のために～
準グランプリ	梅岡美穂	京都府立京都すばる高等学校 ドキドキ! 秘密の京都ツアー
	萩原惇平	富山県立富山商業高等学校 商店街利用促進隊



入賞者全員で記念撮影

大商大ウォームビズの取り組み/クールビズ成果報告

WARM Biz, COOL Biz

■ウォームビズ成果(見込み)

- 削減可能なエネルギー量:原油換算で23.7kℓ(ドラム缶にして120本分)

ドラム缶 **120本分!**

- 削減可能な二酸化炭素の量:約42トン
(杉の木が1年間に吸収する量に換算すると3,000本分に相当)

杉の木 **3000本分!**

■クールビズ成果報告

- 削減されたエネルギー量:原油換算で34.4kℓ(ドラム缶にして172本分)

ドラム缶 **172本分!**

- 削減された二酸化炭素の量:61トン
(杉の木が1年間に吸収する量に換算すると4,358本分に相当)

杉の木 **4358本分!**

大 阪商業大学では地球温暖化防止、環境保護等の一助になるべく夏季期間(6月1日～9月30日)にはクールビズ、冬季期間(12月1日～3月31日)はウォームビズに取り組んでいます。現在はウォームビズに取り組んでおり、学内施設の暖房の室温設定を21℃としています。

今回見込まれるウォームビズの省エネルギー効果、またクールビズの導入効果により削減されたエネルギー量は左のとおりです。(なお詳細は同大学HPにも掲載されています。)

更にクールビズ、ウォームビズの取り組みに引き続き、新たな環境問題への取り組みとして、大学から発生するゴミに関して分別収集が開始されました。細分化したゴミの分別収集により、リサイクルが進むと同時にゴミの減量化が図られ、ゴミ焼却時に発生する二酸化炭素の減量にもつながるものです。これまで同大学で行われてきた学生及び教職員による「クリーンキャンパス」同様、「地球に優しいキャンパス」のスローガンを実践する全学的な取り組みとなります。



3名による鼎談の様子



懇親会で学生と談笑する角川氏



安室教授による講演



コメンテーターの古沢助教

NEWS FILE

神戸芸工大公開講座 「メディア・コンテンツ産業に 就職するために」

～角川歴彦、安田均、大塚英志、それぞれの立場から～

平成18年11月10日(金)同大学吉武記念ホールにおいて、「メディア・コンテンツ産業に就職するために」と題し、公開講座が開催されました。一般の方、学生を含めて約200名の参加者を集めて行われた同講座は角川グループホールディングス代表取締役会長兼C.E.Oで同大学客員教授を務める角川歴彦氏、株式会社グループSNE代表取締役で同大学兼任講師の安田均氏と同大学大塚英志教授による鼎談形式で行われました。

鼎談では角川氏、安田氏、大塚教授の3氏のつながりや各人の当時から現在までのこの業界への関わりなどについて当時のエピソードを交えて紹介されました。3氏とも現在の状況については当時では想像もできなかったと話し、自分たちがやりたいと思ってやり続けてきたことが今につながっていると述べられました。

また角川氏が東京で行われた映画祭で、印象に残った作品の紹介を行ったところ、偶然にも同大学卒業生の作品であったことが判明し、会場は大いに盛り上がりました。

講座終了後は、ホール横のカフェに会場を移して懇親会が行われ、角川、安田両氏の他、業界関係者の方にも参加いただき、同大学学生からの様々な質問等に対応いただきました。同大学学生にとっては業界の状況や事情など生きた情報を聞くことができた懇親会となりました。



蒼天での展示の様子

「総合」の授業で制作された藍染めの作品

大商大高校デザイン表現コースが 卒業制作展を開催

大阪商業大学高等学校デザイン表現コース2期生による卒業制作展が平成18年12月7日(木)～12月14日(木)の間、大阪商業大学「蒼天」ホワイエにて開催されました。昨年度同コース初めての卒業生による卒業制作展が開催されましたが、今年度も引き続き開催されました。

卒業制作で取り組まれた作品以外にも、「デッサン」、「PCデザイン」、「総合」といった他の授業で制作されたデッサン作品やCG作品なども併せて展示されました。「演習Ⅲ」の授業で取り組まれた卒業作品は「商品提案」というテーマが設定され、各自プレゼンシート、キャラクターモデル、ポスター、商品モデルを制作し、トータル作品として仕上げました。

デザイン表現コースの久沼民雄講師は今年度の卒業制作についての感想を次のように語ってくれました。「生徒たちは思った以上にがんばって取り組んでくれましたので、作品のレベルは上がっています。生徒の多くはトータルして一つのものが出来上がる喜びを味わうことができたのではないかと思います。また生徒には各自展示用パネルを割り当て自由に展示をさせたので、各自趣向を凝らした演出がなされていました。このように各生徒が展示自体を楽しんで取り組んでくれたことは、私たちが予想していなかった収穫の一つとなりました」



卒展ハガキ

大商大大学院公開講座 「これからの中国現地経営を考える」

—日本は何を守り、何を交えるべきか—

平成19年1月13日(土)同大学内ユニバーシティホール蒼天において第2回大阪商業大学大学院公開講座が100名を超す参加者を集めて開催されました。

『「これからの中国現地経営を考える」—日本は何を守り、何を交えるべきか—』をテーマに行われた公開講座は講師に兵庫県立大学で経営学部長並びに大学院経営学研究科長を務められている安室憲一教授を招き行われました。また大商大古沢昌之助教授が安室教授の講演に対するコメンテーターを務めました。

安室教授の講演は中国での日本企業の評判、日本的マネジメントと欧米的マネジメントの違いによる中国での経営現地化の差などについて、企業の現地化がうまく進まない中国特有の事情など具体例を挙げながら分かりやすく説明されました。同教授は中国においては経営の現地化を最終目標とするのではなく、もっと多国籍な編成による経営チームによる新しいスタイルのマネジメントを目指すべきではないかと提言され講演は終了しました。

安室教授の講演に引き続き、古沢助教による安室教授の講演に対する補足説明も含めたコメントが行われました。

講演終了後、質疑応答に移り、1ヵ月後に中国に赴く企業の方や日中関係の経済団体の方からの質問に回答され公開講座は終了しました。

コメンテーターを務めた古沢助教は「今日の多国籍企業には、経営の『現地適応』と『グローバル統合』の両立が求められている。今後日本企業には、日本独特の高コンテクスト経営の弊害を克服すべく、責任や権限の文書化といった『公式化』の組織能力を高め、現地化を可能にする土台を構築するとともに、『グローバル人事制度』を通して有能人材に魅力あるキャリア機会を提示すること、そして『グローバルな行動規範』を明示し中国人幹部との信頼関係を醸成することが必要であると言えよう」と、今回の公開講座についての感想を述べられました。

大商大附属幼稚園 おもちつき/クリスマス会

大阪商業大学附属幼稚園では毎年年末の恒例行事となっているおもちつきとクリスマス会がそれぞれ平成18年12月6日(水)と12月13日(水)に行われました。

12月6日(水)は園児によるおもちつきが行われ、重い杵を園児は2人一組となって持ち、周りから声援を送られながら一生懸命おもちをつきました。園児たちは普段、口にすることがない、つきたての温かくやわらかいおもちをおいしいようにほおばっていました。また一般の家庭ではもうほとんど行われていない石うすと杵でのもちつきを体験でき、非常に満足した様子でした。

12月13日(水)のクリスマス会は大商大ユニバーシティホール蒼天で行われました。舞台横に大きなクリスマスツリーが設置されたホールで年中、年長組合同で学年ごとにキャンドルサービスや、劇、楽器演奏などが行われました。当日はウィークデイにも関わらず多くの保護者の方が参観され、子どもたちの演奏や劇を暖かく見守っていました。普段このような大勢の人に見られることのない子どもたちは「とても緊張した」「胸がドキドキした」「拍手がうれしかった」との感想を述べており、緊張した中でも保護者の方の暖かい拍手は子どもたちにとっては大きな励みと自信になったようです。

2人で仲良く杵をもっておもちつき



クリスマス会でのキャンドルサービス



大盛況の
野菜即売会



保護者会バザーも大盛況でした



囲碁教室での対局の様子

NEWS FILE

大商大堺高校で 収穫感謝祭が行われました

平成18年11月18日(土)に大阪商業大学堺高等学校において、毎年恒例となっている収穫感謝祭が開催されました。同校では2年生の必修の授業である「勤労教育」において、校内の演習農園で勤労体験学習を実施し、生徒たちは約3000m²の広大な演習農園での農業体験から、勤労の意義、喜び、厳しさなどを体得すると同時に、土に触れ農作物を育てることから、感謝の心や生命の尊さを学習します。

収穫野菜の即売会では大根、水菜、サツマイモなどこの日までに収穫された新鮮な野菜が地域の方へ安価で販売されました。また演習農園内の水田で収穫されたお米を使ったぜんざいも当日訪れた方々に振舞われました。

当日は野菜の即売会と共に同校保護者会によるバザー並びに、「第1回地域ふれ愛 囲碁教室」が開催されました。囲碁教室には地元の中生や地域の方が参加するなど、同校と地域住民並びに地域の中生との交流が図られた一日となりました。

同校の収穫感謝祭に関するレポートは学園HP (<http://www.tanigaku.ac.jp/>)でも紹介しましたが、写真1点しか掲載できませんでした。ここではバザーの様子、囲碁教室の様子などの写真も併せてご紹介いたします。

大商大高校デザイン表現コースと 大商大附属幼稚園による協力授業について

大阪商業大学高等学校デザイン表現コースでは次年度の取り組みとして、大阪商業大学附属幼稚園との協力授業を行います。

この度の取り組みは同校デザイン表現コースの生徒と園児と交流を図りながら授業展開することで、生徒にとっては自分の作品が実用品として自分以外の人に楽しんでもらえることで、作品制作に対するやりがいを見出せるきっかけとなる、また園児にとって親や兄弟以外のかなり目上となる高校生と交流する機会は、園児たちのコミュニケーション能力を伸ばす機会となるといった双方にとってよい教育効果が期待されます。

なお、この協力授業は2年生の演習Ⅱで行われる木工の授業の中で5月から展開される予定です。実際のクライアントとのデザインワークにおけるコラボレーションの模擬体験の機会と位置づけ、幼児向けの木工玩具の制作を行います。園児がクライアントとなり、デザイナーである生徒とコミュニケーションを図りながら、アイデアスケッチを描き、園児にそのスケッチを提案しながら幼児向けの木工玩具の制作を進めるものです。また実際に園児がその作品を体験し、遊ぶところまで見届けます。

担当の久語民雄講師は次のように語っていただきました。「もの作りが好きで自分の好きなものだけを作っている間は、一方通行の考えになりがちですが、実社会にでると一方通行の考えでは何もできません。当然、自分以外の人との協調力が大いに必要とされます。今後は作品制作におけるレベルアップはもちろんですが、コミュニケーション能力の育成を踏まえた授業展開がもっと必要と考えています。それには学校の授業内だけでは限界があるため、このように学園のスケールメリットを活かして、系列校と連携を図ったこの度の取り組みを企画しました。生徒にはただ単に作る喜びだけでなく、自分の作ったものが人に喜んでもらえたり、役立つことでの新たなやりがいを見つけるきっかけとなればと思います」

インドネシアの
古いトランプ



様々なトランプ図版と
航空会社のPRトランプ

大商大で 世界のトランプ展を開催

大阪商業大学アミューズ産業研究所(TTSセンター2号館3階)において現在「世界のトランプ展」が開催されています。500点に及ぶ世界各地のトランプが展示されており、様々な形態、多様なデザインや色彩など国や用途によって異なる様を楽しむことができます。今回の展示は第6回特別展示と位置づけられ、平成19年1月15日(月)から2月10日(土)まで開催されます(10時~16時まで)。興味のある方は是非とも今回のトランプ展に足を運んでいただきたいと思います。

詳細は同研究所の下記アドレスにてご確認ください。
<http://ouc.daishodai.ac.jp/institute/amusement/exhibition/index.html>

大阪女子短大高校が 「第15回国際高校生選抜書展」 において近畿地区団体賞を受賞

「書の甲子園」の愛称を持つ「第15回国際高校生選抜書展」の審査結果が平成18年11月21日(火)に発表され、大阪女子短期大学高等学校が近畿地区団体賞「優秀賞」を受賞しました。また同校の生徒2名が秀作賞に入賞し、6名が入選を果たしました。同大会は毎日新聞社が主催する世界各国の高校生が日本の伝統文化「書道」の腕と感性を競う大会で、今大会では国内を中心に23の国と地域から14,990点の応募があり、文部科学大臣賞をはじめとする各賞に2,158点が入賞しています。同校では昨年も3名入選しており、今回の16回大会では全国大会に上位入賞できるよう、日々修練を重ねていくことと思われます。



「蒼宙」園見菜央 秀作賞 楷書体の書風で芸術的に表現(色々な湯筆を使って表現)
「一生懸命」高橋結 秀作賞 隷書体の書風で表現

大商大で学長褒賞授与式を開催

平成19年1月17日(水)に同大学ユニバーシティホール蒼天において、学長褒賞授与式が執り行われました。

同大学学長褒賞制度は正規の課外活動として行う体育・文化活動において特に優秀な成績を修めた団体又は個人に対して褒賞を行うもので、春と秋に行われます。

今回の授与式では柔道部とウエイトリフティング部の2団体に谷岡一郎学長から褒賞が授与されました。

団体名	褒賞理由
柔道部	第7回全日本サンボ団体選手権大会 初優勝
ウエイトリフティング部	第54回関西学生ウエイトリフティング選手権大会 43年連続44回目の優勝

谷岡学長から褒賞を授与される
柔道部代表



柔道部とウエイトリフティング部



編集後記

対人距離はパーソナルスペースとも言われ、個人個人によって心地よいと感じる距離は異なります。私は比較的長めにとるので、ものすごく顔を近づけて話す人、一緒に歩いていると妙に体が当たるといった対人距離の短い人は苦手です。大抵の人は状況に応じ、対人距離を調節します。しかし、その対応ができない人、どれだけ近づいても何とも思わない人は私を困らせます。例えば・・・

満員電車の出入り口付近ではほとんどの人がドアの方を向いて立っているのに、大抵の人は乗り込む際、背中や押し込んでいきます。が、たまに何かこちらを向いて乗り込む輩(男女問わず)がいます。「最悪!なんでこっちを向いて乗ってんねん」と理解に苦しみながら、耐えていると、電車の揺れに身を任せおし様たちは揺れる度に私のおごや胸ぐらあたりに頭突きを食らわせ、その度に真上の私を見上げて「すみません」と言ってくれます。私は笑顔で会釈をしながら、心の中ではこうつぶやきます。「おっちゃん見るな! 下向いといて!」

みなさん、一度自分の対人距離はどれくらいか考えてみてはいかがですか。満員電車でいつも御対面していませんか。

■ 各設置校の主な予定

- 2/ 1(木) ・一般入試1期・社会人2期入試[中女大短大部]
- 2/ 3(土) ・卒業式[大商大高校]
- ・第2回 公開シンポジウム[大商大]
- 2/ 5(月) ・福山地域活性化プロジェクト[大商大]
- 2/ 7(水) ・講演会[大商大附属幼稚園]
- 2/ 8(木) ・一般入試[至学館高校]
- 2/ 9(金) ・高校入試[大商大高校・大商女子短大高校・大商大附属高校]
- 2/10(土) ・高校入試[大商大高校・大商大附属高校]
- ・大学院Ⅱ期入試[中女大]
- 2/10(土)~11(日) ・第9回 起業教育研究会[大商大]
- ※11日 陰山英男氏 特別講演
- 2/15(木) ・学園創立記念日
- 2/16(金)~18(日) ・芸工大卒業展(於 兵庫県立美術館)
- 2/21(水) ・園長と考える子育てサロン[大商大附属幼稚園]
- 2/22(木) ・卒業式[大商大附属高校]
- 2/23(金) ・卒業証書授与式[至学館高校]
- 2/24(土) ・卒業式[大商女子短大高校]
- ・郷土文化講演会[大商大]
- 3/ 1(木) ・公開講座[大商女子短大]
- 3/ 7(水)~11(日) ・大商大高校デザイン表現コース12年生合同展(於 東大阪芸術センター)
- 3/ 7(水) ・園長と考える子育てサロン[大商大附属幼稚園]
- 3/10(土) ・一般入試Ⅱ期[中女大/中女大短大部]
- 3/15(木) ・卒園式[大商大附属幼稚園]
- 3/16(金) ・卒園式[中女大附属幼稚園]
- 3/17(土) ・卒業生教員懇談会[中女大/中女大短大部]
- 3/19(月) ・学位記授与式[大商女子短大]
- 3/21(水) ・学位記授与式[芸工大/中女大/中女大短大部]
- 3/24(土) ・学位記授与式[大商大]
- ・オープンキャンパス[中女大/中女大短大部]
- 3/24(土)~25(日) ・全国高校囲碁選抜大会[大商大後援]
- 3/25(日) ・オープンキャンパス[大商大]

※各行事等の詳細については各校のHPにてご確認ください。

本学園における個人情報の取扱いについて

学校法人谷岡学園(以下「本学園」という。)では、個人情報の重要性を認識し、これを保護するとともに、「個人情報の保護に関する法律」に沿って、適切に管理し、利用します。また、本学園は、保有する個人情報に対して、必要かつ適切な安全管理措置を講じ、個人情報の漏洩、滅失、毀損等を防ぐよう努めます。

個人情報取扱業者の名称及び氏名:
学校法人谷岡学園 理事長 谷岡一郎

個人情報の取扱いについての問合せ窓口
学校法人谷岡学園 法人本部 総務課
個人情報取扱係 電話:06-6781-0384

上手にストレス・コーピング

—「心のくせ」を変えてみませんか?—

大阪商業大学
学生カウンセラー
梅林 厚子

1.評価で左右されるストレス

ストレスはなんらかの刺激によって発生するものですが、その特徴は、もし同じ刺激(特に心理的の刺激)があっても、それに対する反応は人によって全く異なることです。例えば、「明日の会議で司会を務める」といった状況に対して、普段から務め慣れている人はそれほど緊張を感じないでしょうが、初めて担当する人はかなりの緊張感、つまり急性のストレス反応が発生してしまいがちです。

すなわち、ストレスの発生には、刺激に対して、受けとめる個人の側がそれをどのように「評価(認知)」したかという「主観」が重要な意味を持てます。下図のように、それを「問題あり」と評価するとストレス反応が生じてしまいますが、「問題なし」と評価すればストレス反応にまでは展開していかないのです。「評価」はその人の性格や特性によっても異なり、価値観やその時々状況によっても変化します。



2.ストレスを抱え込む認知の歪み

「評価」は、「ものごとやできごとのとらえ方、取り込み方」とも説明することができますが、このとらえ方や取り込み方にはその人それぞれの「心のくせ」があります。つまり、私たちはそれぞれの認知パターンを持っているわけです。そして、特にそのパターンが非合理的・非論理的な場合、それは「歪んだ認知」となり、ストレスを抱え込みやすくなってしまいます。

認知の歪みには、次のような代表的なパターンがあります。

<過度な一般化>

わずかな事実を取り上げて、それが一般法則であるかのように勝手に結論づける。
→「私は2度もミスをした。これからも仕事で必ずミスをするだろう」

<二分思考・白黒思考>

物事が曖昧な状態であることを嫌い、常に明確に白黒をつけたいと気がすまない。
→「期日までに完成できなかったら、全くの失敗だ」

<心のフィルター>

何か一つうまくいかない時など、そのことばかりが気になり、他のうまくいっていることが目に入らない。
→「こんなに低く評価されたということは、私の仕事がどうしようもなくひどかったのだ」

<すべき思考>

自分や他人の言動を、「こうあらねばならない」「こうすべきだ」と決めつけてしまう。
→「私は与えられた仕事を完璧にこなさなければならない」

<読心>

相手が何かを言ったわけでもしたわけでもないのに、相手の気持ちを勝手に推測する。
→「彼が私とあまり話さないのは、私に敵対心を持っているからだ」

3.「評価」に対するコーピング

ストレスは個人の性格や物事の考え方などに左右されるため、「どうしようもないもの」ととらえられがちです。しかし、ストレスに負けないように戦い、対処することは可能で、ストレスへの対処行動を「コーピング(coping)」と呼びます。2.のような場合、認知の歪みである非合理思考を合理的な思考に置き換え、ストレスを生じさせないようにすることが最善の方策で、これが「評価」に対するコーピングとなります。次例のような合理思考を少しでも参考にしていれば、「気の持ちよう」を変えることで心が軽くなることを実感していただければ幸いです。

<過度な一般化>

「2度ミスをしたからといって、仕事すべてにミスをすると思える理由は何もない」のように、一事をもって万事と考える合理思考に変える。

<二分思考・白黒思考>

「期日までにできなかったら、ほとんど完成することができているのだ」と、状況を連続体でとらえる合理思考に変える。

<心のフィルター>

「他の面では高い評価も受けている」とうまくいっている面にも目をむける合理思考に変える。

<すべき思考>

自分が「与えられた仕事を完璧に」と思いこんでいるだけにすぎないのではないかと自己を客観視する合理思考に変える。

<読心>

「彼が私とあまり話さない」のが事実かどうかをまず検証し、そのうえで人と会って理由を聞くなど、すべて収集した情報に基づいて判断する合理思考に変える。

学校法人 谷岡学園 Phone:06-6781-0385
大阪商業大学・大学院 http://ouc.daishodai.ac.jp/
神戸芸術工科大学・大学院 http://www.kobe-du.ac.jp/
大阪女子短期大学 http://www.owjc.jp/
大阪女子短期大学高等学校 http://www.osakajyosi-h.ed.jp/
大阪商業大学高等学校 http://www.daishodai-h.ed.jp/
大阪商業大学附属幼稚園 http://www.shodai-kids.ed.jp/

姉妹法人 清陵学園 Phone:072-278-2252
学校法人 清陵学園
大阪商業大学堺高等学校 http://www.shodaisakai.ac.jp/
学校法人 中京女子大学 Phone:0562-46-1291
中京女子大学・大学院 http://www.chujo-u.ac.jp/
中京女子大学短期大学部 http://www.chujo-u.ac.jp/
至学館高等学校 http://www.shigakukan-h.ed.jp/
中京女子大学附属幼稚園 Phone:0562-46-1294

